



Seminar

線虫における革新的遺伝子スクリーニング Optogenetic mutagenesis for forward genetic screens in *C. elegans*

野間 健太郎 博士

University of California, San Diego,
HHMI研究員, さきがけ研究員

2017年1月11日(水) 午後3時～4時
G館 G101講義室

モデル生物を利用した遺伝子スクリーニングは、あらゆる生命機能において重要な遺伝子の発見に貢献してきた。しかし、これまでの化学物質を用いた方法では、変異導入が常にゲノム全体に対してであるという制約があった。そこで我々は、活性酸素産生タンパク質を用いて、線虫(*C. elegans*)にランダムな遺伝性変異を導入する方法を開発した。この方法は、様々なDNA結合タンパク質と組み合わせることによって、全く新しい遺伝子スクリーニングのデザインを可能にする。本セミナーでは転写因子の標的に対する変異導入と、1遺伝子に対するランダム変異導入の可能性について議論したい。

世話人: 森 郁恵
(分子神経生物学 内線4560)